

第30回日本救急医学会九州地方会
市民公開講座

もしもの時に慌てないための話し合い
～救急医療と人生会議(ACP)～

一般社団法人 大分救急医学会 理事
大分中村病院 消化器内科/救急科 部長

松成 修

令和8年6月20日 ホルトホール大分

もし今日、 ご家族が突然倒れたら

あなたは

「どんな治療を
してほしいか」?

答えられますか？



突然のことだからこそ、
事前の話し合いが大切です。



救急現場で実際によくあること

救急外来では

- 心臓が止まった
- 呼吸が苦しい
- 意識がない

そんな場面で

家族に突然

「どうしますか？」

と聞かなければならない
ことがあります。



家族の言葉

「こんな話、
したことがない」

「本人は
どう思っていたんだろう」

「私が
決めていいの？」

家族は
大きな**不安**を抱えます。



人生会議 (ACP) とは？

元気なうちから

- 自分が大切にしていること
- どんな暮らしを望むか
- もしもの時の希望

を**家族**や**医療者**と
話し合うこと

それが

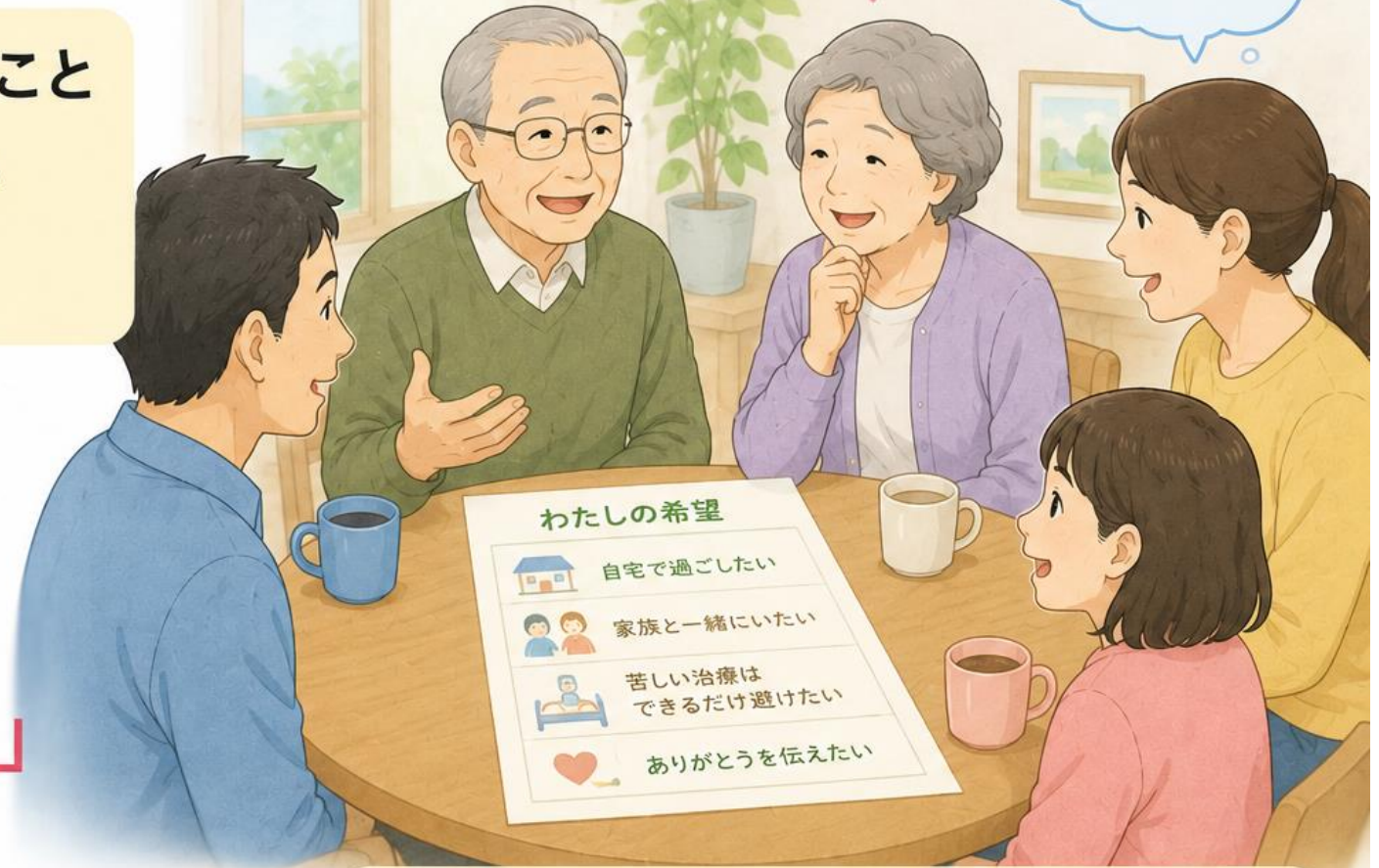
「人生会議 (ACP)」
です。

♡ 自分らしい人生を大切にするための話し合いです。

大切に
していることは
何かな？

これから
どう過ごしたいか
考えてみよう

もしもの時は
どうしたいか
聞かせてね



話し合うことで、家族も安心できます。
あなたの思いを、あなたの大切な人へ。

なぜ必要？

救急搬送や重い病気の時には、
自分で意思を伝えられないことがあります。



具体的な例



脳梗塞で、
意識が戻らない



認知症で、
会話が成立しない



言葉が出ない・
理解ができない



希望を
伝えられない



だからこそ、元気なうちに話し合うことが大切です。

救急現場で起こること



『心肺蘇生をするか』



『人工呼吸器を使うか』など、



短時間で判断が必要になることがあります



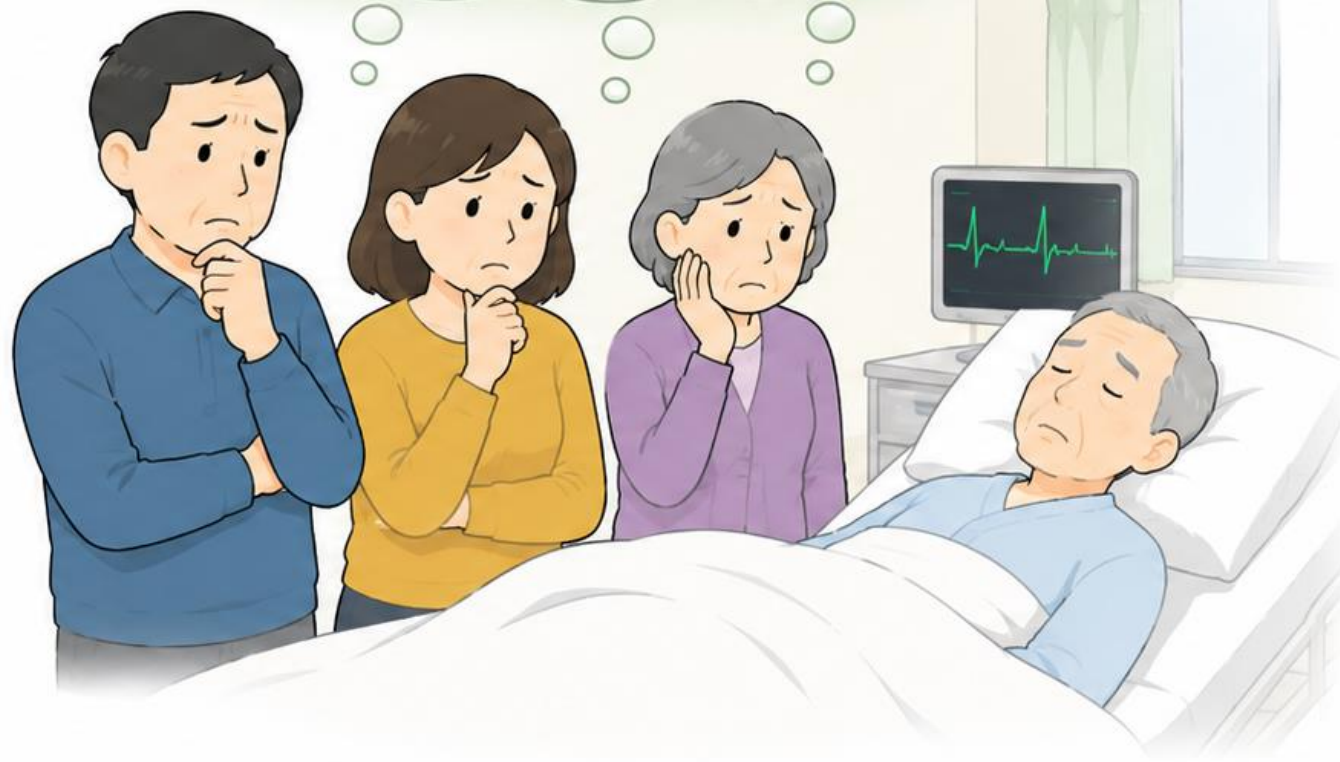
その後の経過の中で
『そんなつもりではなかったのに』と
後悔することも…



ACPがない場合

家族が、
『今後の療養の方針について、
どうしてあげるのが良いのか？』
と悩み続けることがあります。

今後の療養の方針について、
どうしてあげるのが良いのか…？



ACPがある場合

本人の価値観に沿った
医療を選びやすくなり、
家族の負担も
軽くなります。





ACPがある場合とない場合のちがい



ACPがない場合



突然の救急搬送



家族が迷う



本人の希望が
分からない



後悔が
残ることも

ACPがある場合



突然の救急搬送

本人の考えを
家族が知っている



本人らしい
選択ができる



家族も
納得しやすい



元気なうちの話し合いが、もしもの時の「安心」と「納得」につながります。



救急医から見たACPの価値

ACPは

「医療を決めるため」

ではなく

「本人の思いを
守るため」

にあります。

お一人おひとりの
大切な思いを
一緒に考えます。



患者さんが大切にしていることを理解することで、
その人らしい選択を支えることができます。



ACPは、患者さんご家族、そして医療者が
「同じ方向を向いて進む」ための大切な対話です。

何を話せばいいの？

難しく考えなくて大丈夫です。



何が**楽しみ**ですか？



何が**生きがい**ですか？



どんな状態なら
つらいですか？



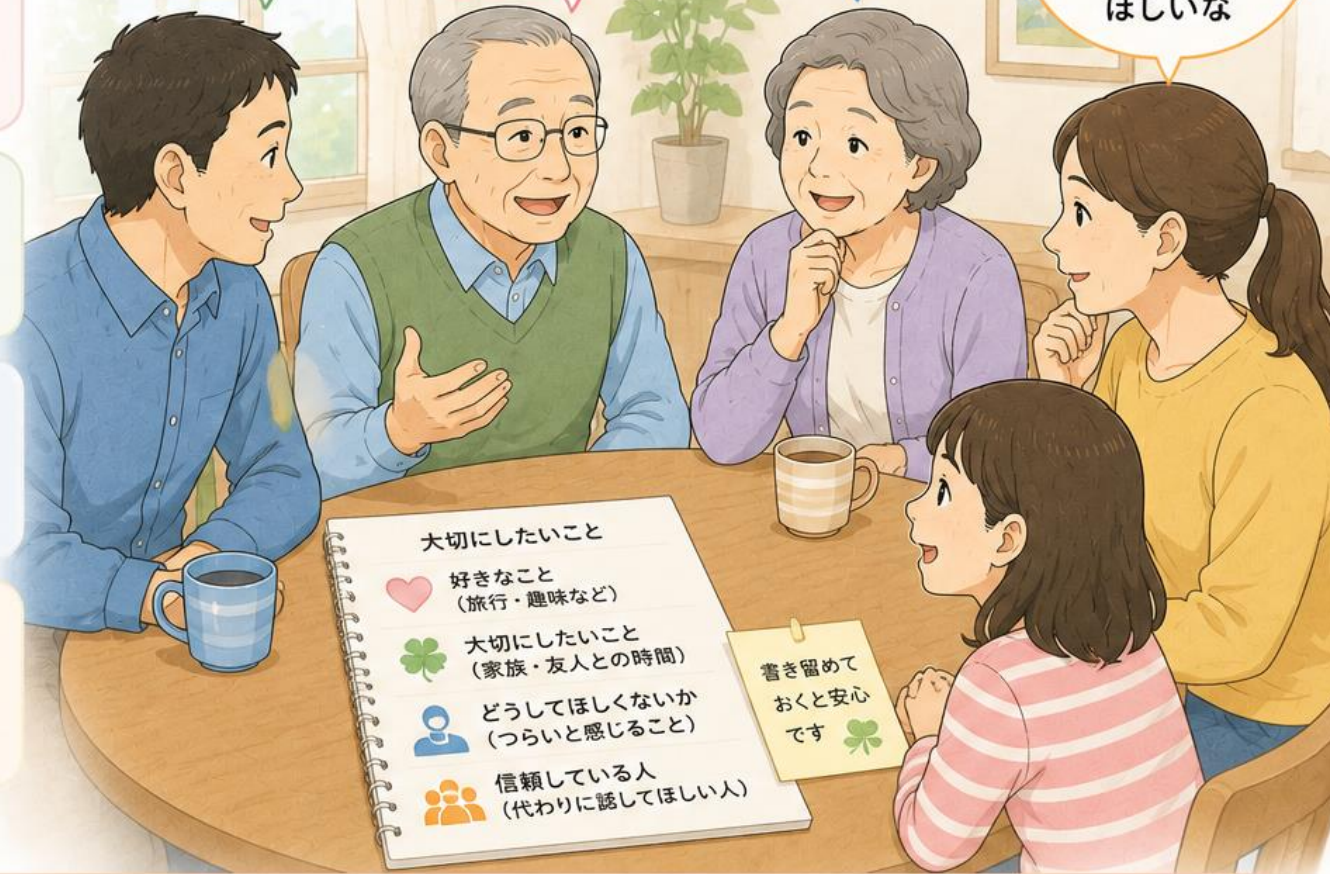
誰に**代わりに**
話してほしいですか？

旅行に
行くのが
楽しみなんだ

家族と過ごす
時間が一番の
生きがいだよ

自分で
食事ができなく
なるのは
つらいなあ

もしもの時は
長男の〇〇に
相談して
ほしいな



まずは、身近な人と**気軽に話してみる**ことから始めてみましょう。



今からできること

① 家族と話す



② かかりつけ医に相談



③ 考えが変わったら 見直す



延命治療の話と、人生会議 (ACP) の話は、似ているようで**違います**

どちらも大切ですが、**目的**や**話す内容**、**タイミング**が違います。

似ているところもあります

- どちらも、本人の思いを大切にすること
- どちらも、家族や医療者と話し合うこと



大切にしたいこと

- 家族と過ごす時間を大切にしたい
- 好きなことを続けたい
- 自分らしく暮らしたい
- つらい治療は避けたい など

延命治療の話

命が危険な状態になった時に、「どの治療を受けるか・受けないか」を決める話です。



主な話す内容(例)



- 心臓マッサージをしてほしいか
- 人工呼吸器を使ってほしいか
- 胃ろうや点滴を続けるか
- 延命のための治療をどこまで希望するか

話すタイミング(例)

病気やけがで
命の危険が迫った時など
(主に医療の場面で)



主な目的



命を救うための
医療行為について、
選択や判断を
すること

大切なポイント



家族や医療者と
よく話し合い、
本人の思いを大切にして、
最善の医療を選択します。

人生会議 (ACP) の話



元気なうちから、
「自分が大切にしていること」や
「どんな人生を望むか」を話し合うことです。

主な目的



自分らしく大切にしたいことや
希望を医療やケアに活かすこと

主な話す内容 (例)



何が楽しみ?

大切にしていること



どんな暮らしを
続けたい?

住み慣れた家で過ごしたい
など



どんな状態に
なるとつらい?

できなくなったら
避けたい治療など



誰に希望を伝える?

信頼できる家族や
大切な人のこと

救急医からのメッセージ

人生会議は
『最期の話』
ではなく、

『自分らしく
生きるための話』
です



Daughter from California syndrome

「Daughter from California（カリフォルニアから来た娘）症候群」は、医療現場で使われる表現で、医師や医療チームが、**家族（主に親族）からの要望に応えようとして、患者にとって本当に必要なのか疑わしい治療や延命措置**を行ってしまう状況を指します。



「本人にとって最善かどうか」よりも「**家族の希望や不安**」に引っ張られてしまうことを防ぐための考え方です。

実際に変わり始めている救急医療

現在は全国で、**人生会議を尊重する救急対応**が始まっています。
本人の意思をできるだけ尊重する仕組みづくりが進んでいます。

救急隊

救急現場で状況を確認し、
本人の意思について
確認します。



こんなことを確認します

- ・心肺停止の状況
- ・本人の意思表明書の有無
- ・家族や関係者からの情報

かかりつけ医

患者さんの普段の状態や
人生観を把握しています。



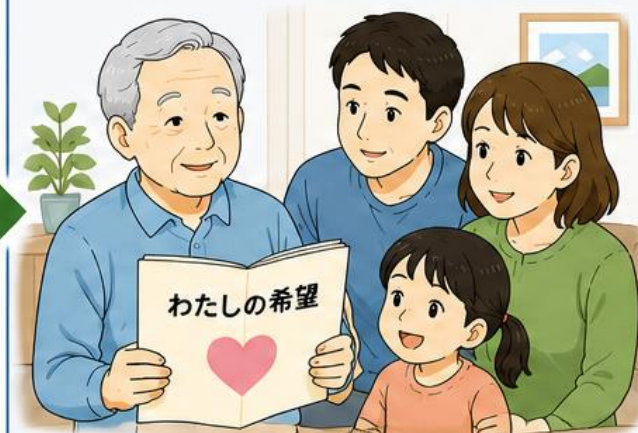
- ・普段の診療で把握
- ・人生会議の内容
- ・本人の価値観

救急隊と連携し、 助言・判断を行います

- ・心肺蘇生の継続・中止の助言
- ・搬送先の方針の判断
- ・本人らしい医療・ケアの提案

本人の希望

本人の大切にしていること
や望みを尊重します。



本人らしい選択につながります

- ・本人の価値観に沿った治療やケア
- ・家族の納得と安心
- ・後悔の少ない選択



人生会議をしておく、いざという時に安心につながります。

まとめ

突然の決断に困らないために、

元気なうちから話し合い

(人生会議・ACP)を

始めましょう

